

エピソード

クーゲルバーンとトイで途中から3本に分かれたビー玉転がしのコースを作っていました。何度も転がす内にビー玉の転がる先が予測できなくなってきました。すると、A児が指を差し、コースの周りを小走りして、「こっちが100点、こっちが50点、こっちは0点」と保育者に笑って話していました。A児は周囲の子が転がすたびに、コースを見て「お、50点や」「100点!」と言い続け、コースの周りを跳び回っていました。そのうち0点が続くと、

A児「Cくん、0点の答案用紙もらえた」

B児（自分のビー玉が転がった先を見て）「僕も0点の答案用紙やった」

A・C児（何度も自分のビー玉が転がった先を見て）「0点の答案用紙や!」

と時々顔を見合わせ、笑いながら楽しそうに話していました。次に

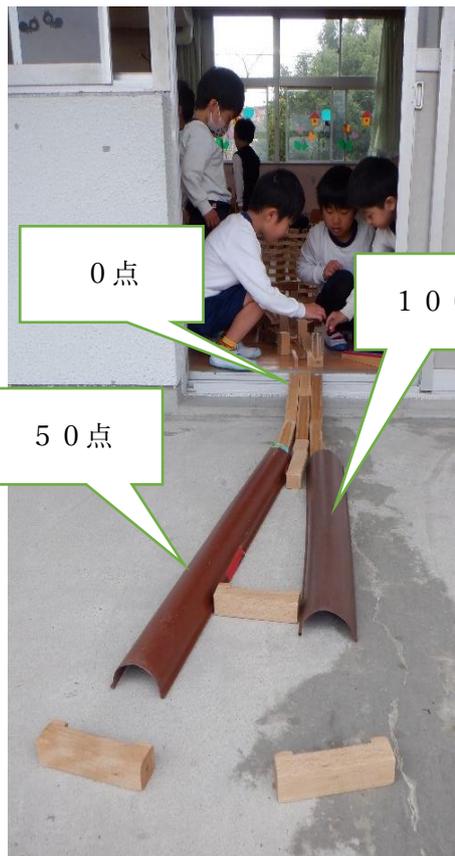
A児（100点に入ったのを見て）「Bくん、“できすぎくん”や」

D児（転がして0点に入り）「Dは0点や」

A児「Dくん、“のび太くん”」

D児「先生、俺は“のび太くん”やった」

と嬉しそうに話していました。

保育者の思い

楽しくて跳び回りながら点数を言い続ける、ビー玉はどこに行くのかなと何度も試す、など一人ひとり遊びの楽しさは違うところにありました。そこで一人ひとりの気持ちを受け止め共感し、充実感を得られるよう関わりました。

言葉遊びや世界観を共有しながら友達と関わって楽しんでほしいと思います。

家庭だったら・・・

子どもの思いやアイデアは大人が考えつかないことも多くとてもおもしろいものがたくさんあります。それはどこからつながってきたのかな?なんでそうなったのかな?などしばらく見守ってみてください。あーなるほど!につながることも多いかと思います。

子どもの育ちや学び

初めは物（ビー玉、コース）を使って遊ぶことを楽しんでいました。

思いついた言葉を使って遊びはじめると、空想の世界（好きなアニメの世界）を友達と共有する姿に変わりました。言葉遊びがつながり遊びの幅が広がっていきました。

感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりしています。

